

## 周年屋外飼育のウマにおける Social cue に対する反応

生物資源科学専攻 家畜生産生物学講座 畜牧体系学教室 小泉亮子

### 1. 目的

Social cue とは個体間のコミュニケーションに用いられる非言語的生体信号である。イヌは人間の Social cue を利用して隠された餌を探すことができ、Social cue を媒介としたコミュニケーション能力を持つことが示されている。ウマはイヌと同様に使役動物であり、人の cue に反応する可能性が高い。そこで、本研究では、群で放牧飼養している北海道和種馬を用いて人の Social cue に対する反応および反応に対する調教および馴致の影響について検討した。

### 2. 材料および方法

- 1) 試験は北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場で行った。
- 2) 試験手順 cue を出す指示者の左右に設置したバケツのどちらか一方に餌報酬として穀類を入れ、Social cue を提示し、バケツを試験個体を選択させた。
- 3) 測定項目 cue に対してどちらかのバケツを選んだ回数を応答数として、正解数、選択に要した時間とともに記録した。
- 4) 試験 1 は馬種および生育環境が異なる調教馬 3 群および人との接触がほとんどない個体群を用いて試験方法について検討した。
- 5) 試験 2 は初期調教されている北海道和種の雌 2 頭, 雄 4 頭を B 群とし(平均年齢  $5.3 \pm 2.3$ ), 人に対して馴致されているが、未調教の北海道和種の雌 6 頭を NB 群(平均年齢  $2.3 \pm 0.5$ )とした。
- 6) 試験 3 では初期調教されている北海道和種の雌 2 頭, 雄 4 頭(平均年齢  $5.3 \pm 2.3$ )に対し指さし(PC), 視線(GC), 体軸(BC)を提示し、主成分分析およびクラスター分析を用いて各 cue における正解数から 3 群に分類した。

### 3. 結果および考察

- 1) 試験 1 では、調教されていない個体は cue に対して反応しなかった。
- 2) 試験 2 では、B 群と NB 群の正解率に差は無く、cue に対する反応には調教より人との接触経験が影響していると考えられる。
- 3) 試験 3 では、PC および GC の正解率が 50%を超えており、これらの cue を利用したと言える。また、cue の正解率には個体のばらつきが大きく、クラスター分析により 3 群に分類できたことから、cue に対する反応を個体選抜に応用できる可能性が示唆された。

### 4. まとめ

本試験より、ウマの Social cue に対する反応には調教より人との接触経験が影響していると示唆された。個体の気質的特徴は行動に表れるが、Social cue に対する反応には人に対する親和性もしくは攻撃性が関与しているかもしれない。今後は、その相互関係を探り、用途に適した個体の選抜やより効率的な訓練方法の開発への応用が期待される。